

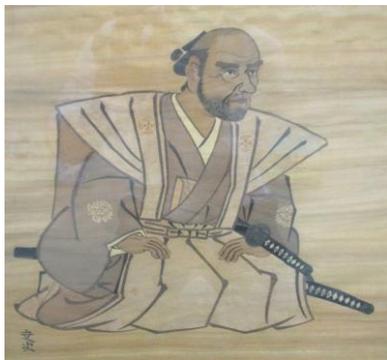


教育長コラム



「万象具徳」 ～先人の教え～

この二宮尊徳先生の木象嵌は、昭和52年に小田原市内の各学校に送られたものです。



作者はこの道一筋70年、小田原市南町にお住まいだった内田定次(うちたさだじ)さんです。

内田さんは、木象嵌作りの名人として、その腕前を日本はもとより広く海外でも認められた方でした。縁あって、私は内田さんと何度かお会いし、木象嵌の話や子どもの頃の話などを伺う中で、仕事にかける真摯な態度、熱意、職人魂に心を惹かれていきました。

小学校の高等科を卒業した内田さんは、その頃の多くの子ども達がそうだったように、中学校への進学をあきらめ、仕事を見つけなくてはなりません。いろいろな体験や多くの関わりの中から内田さんは、自分を生かす道は図画・工作だと考え、大好きな絵と物作りを生かした木象嵌の道に進もうと決心したそうです。

しかし、仕事に就くと仲間がどんどん上達していくのを見て、悔しくて悔しくて、辞めてしまおうと何度も何度も思ったそうですが、その度に「仲間と比べることはやめよう。自分の特技が生かせるこの道で頑張ろう。」と、自分に言い聞かせ、自分を信じて修行に励み努力を重ねていったそうです。

そして、何年も何年もかけて腕を磨いていった内田さんは、私にこう話されました。

「自分は、決して器用な方ではないが、この仕事が自分を生かす道だと思った。だからこそ、自分に納得のできる作品を作ろうと、精一杯取り組んでいる。鋸も小刀も道具は全て自分で作る。良い作品を作るには、とことんこだわることだ。木象嵌を作っている時が本当の自分の姿だ。」

この作品は、内田さんが57歳全盛期の作品です。

内田さんが最も仕事に油が乗っていた時期に、なぜ尊徳先生の作品を作り、各学校に寄贈して下さったのか。私はこう思うのです。

一つは、『万象具徳』、二宮尊徳先生の教えです。この世の全ての人やもの(万象)は、それぞれが独自のよさ・力(徳)を身につけている。その徳を互いに認め合い、磨き、磨き合い高めあって、よりよい生活、よりよい人生、よりよい社会を築いていこうというものです。尊徳先生を尊敬していた内田さんの職人人生は、正に万象具徳を貫いた生き方だったと思います。内田さんが持っている絵や物作りの力(徳)を生かし、木象嵌作りの名人となった内田さんの尊徳先生への感謝の気持ちの表れだと思います。

もう一つは、小田原の子ども達に、内田さんのように人やもの、様々な出来事との関わりを大切に、それぞれ歩む道は違っても一人ひとりが持つ徳を磨いて充実した人生を送ってほしいという願いがあったのだと思うのです。尊徳先生の教えと内田さんの生き方に感銘を覚えるとともに、子ども達が自ら徳を高める支えとなるのが、私たち大人の使命であると、この作品は語りかけているように思えてなりません。

小田原市教育委員会教育長

柳下正祐



子どもの安心安全な登下校のために。

通学路の安全を継続的に確保するため、各学校では、「小田原市通学路交通安全プログラム」に基づき、PTA、自治会、また必要に応じて道路管理者や警察なども参加し、通学路の安全点検や対策会議を毎年実施しています。改善が必要な箇所は、学校安全課を通じて道路管理者や警察などに依頼し、対策を講じることで、通学路の安全を確保しています。



令和3年9月に緊急の合同点検を実施します。

令和3年6月、千葉県八街市において、下校中の小学生の列にトラックが衝突し、5人が死傷する痛ましい交通事故が発生しました。

今回の事故を受けて、国では、子供の安全を守るため、万全の対策を講じるべく、通学路における交通安全の確保と、飲酒運転の根絶を柱とする緊急対策を取りまとめました。

緊急対策の1つとして、全国の公立小学校の通学路を対象に、これまでの危険箇所に加え、今回の事故現場のように、見通しの良い道路や、抜け道となっていて、車の速度が上がりやすい箇所などを追加し、9月末までを目途に点検を実施することになりました。

本市でも順次、各学校関係者や道路管理者、警察などと協力しながら、合同点検を実施して地域の実情に即した効果的な対策を検討していきます。

安全対策の一例

ソフト面

<学校等が行うもの>

- 安全教育
- 通学路の変更
- 見守り活動の強化



<警察が行うもの>

- 交通指導や取締り

ハード面

<道路管理者等が行うもの>

- 歩道の整備
- 車止めの設置
- グリーンベルトの設置

<警察が行うもの>

- 信号機の設置
- 通行止めや最高速度等の交通規制

<その他>

- 「歩行者注意」等の啓発標示

